

平成 30 年度 第 1 回 昭和大学病院 医療安全外部監査委員会 議事録

日 時 平成 30 年 12 月 4 日 (火) 午後 3 時 00 分～午後 4 時 20 分

場 所 昭和大学病院中央棟 7 階会議室

出席者 監査委員

三宅弘人委員長(弁護士)、越石孝一委員(患者代表)、

高橋寛委員(昭和大学藤が丘病院病院長)

病 院 側

板橋家頭夫病院長、小林洋一医療安全管理責任者(副院長)、

城所扶美子看護部長、佐々木忠徳薬剤部長、根本友重医療安全管理者、

古田康之医療安全管理者、二瓶友美医療安全管理者、

大石竜医療機器安全管理責任者、野田秀裕医薬品安全管理責任者、

田口彰彦事務部長、佐々木 真管理課長、山下 寛クリティカルマネジメント課長、

林 晃汰医療安全部門専任事務

議 事

1. インシデント・アクシデント件数について

平成 29 年度と平成 30 年 4 月から 10 月までの報告件数・報告率について説明があり、委員から次の意見があった。

- 1) 医師・研修医のインシデント報告率が増加傾向にあるが、どのような啓発をしたのか。

【病院側回答】

手術関係の報告(手術時間超過等)が増加していることも要因として考えられるが、昨年 4 月に着任した専従医師から、発生したインシデントは必ず報告書として提出するよう直接伝えていることが大きな要因ではないかと考える。

- 2) 医師・研修医が報告した後のフォロー体制はどのようになっているか。

【病院側回答】

重大事案については、医療安全管理部門と該当部署とで症例検討を実施し、今後起こり得るインシデントを未然に防ぐための分析と対策を討議している。

2. 2018 年度 医療安全管理部門目標中間評価について

今年度の部門目標として、下記の 4 点について説明があり、委員から質問があった。

- 1) 院内急変対応システム(Rapid Response System)の運用

①医師はどの診療科が構成員としているか。

【病院側回答】

救急医学科医師と ICU 医師が構成員となっている。

②RRS 起動頻度の多い診療科はどこか。

【病院側回答】

患者数や、重症患者が多い呼吸器内科・消化器内科・整形外科が挙げられる。

③診療科の主治医不在時の体制はどのようになっているか

【病院側回答】

看護師の気づきをもとに当システムが起動されるため、主治医不在時でも看護師より起動可能である。(起動後は RRS チームが主治医とも連携をとっていく)

- 2) mortality & morbidity カンファレンスの実施

- 3) テーマ別分科会の再構築について

- 4) 患者誤認の提言への取り組み

3. 事例報告

事例検討会で検討した事例や警鐘的意義のある事例について説明を行い、原因分析や対策について評価を行った。

4. 講評

委員から下記の意見があった。

- ・院内急変対応システム(Rapid Response System)は非常に良い取り組みである。
- ・インシデント等の再発防止に役立てるためにも、テーマ別分科会内の各チームの取り組みに対して年度末に評価を実施すると良い。
- ・**mortality & morbidity** カンファレンスの実施にあたって患者・医療者の個人情報の保護に関して、参加者に説明し、かつカンファレンスで使用した資料は回収しているとのことであるが、より慎重に取り組むと良い。
- ・患者確認時にカードリーダーで患者より手渡された診察券を読み込み、本人確認するような体制作りを検討してはどうか。
- ・検査画像所見の確認徹底と、当院では3ヶ月を目安に全て開封するよう取り組んでいるが、患者心情に鑑みて、2ヶ月前までは全て開封するような運用すると良い。

5. 次回開催について

今回は平成 31 年 3 月頃に開催予定とし、改めて日程調整することとした。

以 上

議事録作成：管理課 佐々木 真